



出会いからつながるキャリア

——ファシリティマネジメント×自主勉強会

「FM」「AM」って、ラジオ?

皆さんは、「FM」「AM」と聞いて何を思い浮かべますか。「そりゃ、ラジオでしょ」とお思いの方が多いと思います。「ファシリティマネジメント」「アセットマネジメント」とお答えの方、あなたはマニアックな玄人ですね(笑)。

「FM」とはファシリティマネジメントの頭文字をとった略語です。ファシリティマネジメントとは、「企業・団体等が組織活動のために、施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動」(日本ファシリティマネジメント協会)とされています。もちろん行政組織も含まれており、その経営活動の違いから行政が行うFMを「公共FM」などと言っています。

本稿では、ファシリティマネジメントを「FM」と表記します。私がFMと出会い、認定ファシリティマネジャーという資格を

取得し、資格以外の効果も含めてそこから得たものなどの体験談を綴っていきます。

認定ファシリティマネジャー

認定ファシリティマネジャーとは、FMを推進する専門家です。「快適かつ機能的なファシリティを継続的に供給し、理念の具現化及び経営目標を達成し、かつ健全な社会資本の形成に貢献する」ことを目的として、平成9年度に創設された資格制度です。

小平市職員である私は、平成23年度に政策課に異動となった際にFMに出会いました。当時は、上司から「いざれ必要となるからちよつと勉強しておいて」程度でしたが、平成25年度に行政経営課に担当ポストが新設され、そこに異動となつてから深く関わっていくことになりました。

FMを勉強しながら、研修視察で訪れた岡山県倉敷市でMさんに出会います。Mさんは、認定ファシリティマネジャーの先輩で、



小平市教育委員会 教育部 学務課長
飯島 健一

[いいじま・けんいち] 小平市生まれ、小平市育ち。認定ファシリティマネジャー。入庁後、財政課、政策課等を経て、令和2年4月より現職。国土交通大学校や他自治体等の講師、専門誌等の寄稿多数。地域における自主研究グループも運営する。

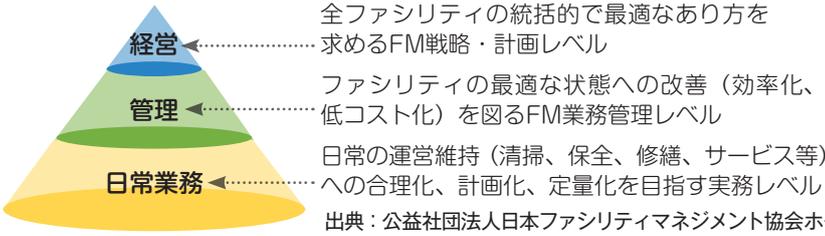
FM初心者の私はいろいろと教えてもらい、今でも尊敬する姉御(笑)です。その懇親会場で、「あなたは認定ファシリティマネジャーを取りなさい!」と言われました。「認定ファシリティマネジャーって何?」という状況でしたが、つい「はい」と返事をしてしまいました。

あまり資格取得などをしてこなかった私ですが、「はい」と言ったからには頑張るしかありません。資格取得には、テキストとなっている『公式ガイド ファシリティマネジメント』を勉強することが近道です。

とはいえ、ボリュームのある内容を詰め込むのは、私の頭では困難でした。途中からは、資格が取得できなくても実務に役立てられるよう、基本を押さえながらも、公共に関する部分を重点的に勉強しました。隙間時間でテキストを読み、まとまった時間が取れる時には問題集に取り組みました。こうして私は、平成27年度に認定ファシリティマネジャーの資格を取得することができました。



【図表】FMの3つのレベル



資格取得の効果

FMを基礎から学び、業務に関する知識が深まったことで、常にFMの体系的・論理的な考え方を軸に据えて実務を進めることができるようになり、議会等でも自信をもって答弁できるようになったことは、私にとって大きな成果でした。

また、目の前の実務に従事するだけでは得ることができない、自治体全体を経営的視点から俯瞰して見ることができるようになりました。自治体職員は、異動により全く異なる分野の業務に従事することが多くありますが、異動後も、経営資源を効率的、効果的に活用する考え方は、事業の企画や予算編成、職場環境の改善などに役立っています。

さらに、全国に多くの仲間ができ、多くの方々と議論ができるようになったことは、私のキャリアデザインを考える上で、大きな影響がありました。

公共FMの仲間づくり
(市役所内部)

行政におけるFMは、先進的な自治体では平成20年くらいから「公共施設マネジメント」などの名称で推進され始めていました。老朽化し始めている公共施設をどうしていくのか、という議論が活発になってきた中、平成24年12月に笹子トンネルで天井

板が落下する痛ましい事故が起こります。平成26年度には、総務省から公共施設等総合管理計画の策定が要請され、公共FMは一気に全国的な流れとなっていきます。

そのような時代の流れの中で、小平市も公共FMに本格的に着手します。FMは【図表】のとおり、施設の掃除などの日常的な維持運営に始まり、すべての活動がFMであり経営活動の一環となります。すべての公共施設を経営的視点で考えていくには、担当部署のみではなく、全庁的な取組が必要となります。

しかし、小平市ではこれから本格化していく施策であり、多くの職員は冒頭のタイトルのとおり「FMってラジオ?」という状況でした。そこで私は庁内研修などを行い、認定ファシリティマネジャーの資格取得のために勉強した内容をアウトプットして、周知に努めました。徐々に組織内でも認知され、その必要性などを理解し、一緒に経営的視点で考えてくれる仲間が増えていきました。

そして、平成30年度には、公共FMを専門的に推進する公共施設マネジメント課が設置されました。また、詳細は割愛しますが、学校給食センターや公園のPFI手法による整備や、ESCO事業による照明のLED化やボイラー改修などが実現しています。さらに、学校では、いじめ少子化により不要となる校舎をリースにより整備する例や、教職員の働き方改革のために職員室のレイ

アウトを変更し、環境を改善した事例もあります。このように、多くの課において、前例踏襲の従来型手法ではなく、FMの経営レベルで検討し、最適な手法を選択する事例が増えてきました。

公共FMの仲間づくり
(外とのつながり)

私が平成25年度に行政経営課に異動した当時、東京の多摩地域では、公共FMに関して小平市と同じような状況の自治体が多く、知識や意識を高めていく取組が必要と考えました。そこで、平成26年度に東京都市長会の助成金をいただき、近隣自治体の職員とともに業務に位置付けた研修を企画し、先進自治体の職員の話などを聞きました。

この研修会は、平成27年度に「自治体等FM連絡会議 多摩地域会」へと発展していきます。「自治体等FM連絡会議」とは、一般財団法人建築保全センターが支援する会議で、平成21年度に発足し、全国大会のほか、各地域における地域会があります。多摩地域会も全国で8番目の地域会として活動の幅を広げていきました。

様々な公共FM関係者とのつながりから、平成27・28年度には、自治体等FM連絡会議全国大会の代表幹事も務めさせていただきました。また、同時期には、FMの定義づけや認定ファシリティマネジャーの資格管理を行っている日本ファシリティマネジメ

ント協会の公共施設FM研究部会の副部長も務めさせていただきました。

その頃から、ありがたいことに講師の依頼をいただくことも増え、全国の自治体や研修機関などでお話しする機会をいただきました。基本的には人と関わることや人前に出ることは苦手なのですが、人前で話す度胸もつけることができました。

このように、庁内、庁外の活動を通じて仲間ができることによって、仲間からさらに教わり、多くの刺激を受けたポジティブなスパイラルは、現在の私のキャリアの大きな部分を占めています。外に出ること、誰かに伝えること、多くの方の考えに触れることで、一回りも一回りも成長させてもらいました。

自主勉強会からの発展

話は変わりますが、私のキャリアを形成する大きなものの一つに、業務外の自主勉強会の運営があります。入庁後1年を超えた頃に市役所内部のK先輩に誘われて自主勉強会に関わり始めます。当時は、上司や同期ではないナナメの関係を築くことに喜びや意義を感じていました。

そのグループは立ち消えになっていきましたが、20年くらいの時を経て、K先輩をはじめとした4人で、「Kグループ」（Kは小平市のK）という自主研究グループを立ち上げました。「人は人で磨かれる」という考えのもと、参加者は小平市職員に限定せずに

オープンな場づくりをしています。ゲストスピーカーからの話や参加者同士の対話を通じて、スキル、能力、気力、行動力、理解力をアップできるようにと、運営をしています。コロナ禍で一時中断していましたが、平成28年の立上げからこれまでに30回の勉強会を開催し、自身の学びになるとともに、幹事としての運営ノウハウも知ることができ、とても充実した取組になっています。

また、その1年前の平成27年からは、「タマガワリーグ」という自主勉強会の実行委員にもなっており、東京の多摩地域という広域的なフィールドのなかで、「学ぶ。つながる。はじまる。」を合言葉に、志を持つ人財が結集し、それぞれが持つ問題意識や知識の共有化を通して、意識を高め合い、相互に成長し合うための場づくりを年1回程度開催しています。

これらの自主勉強会は、業務外であるため、自由に企画でき、様々な実験も可能です。その実験は、翻って業務に役立つことも多々あります。また、業務でつながった方を自主勉強会の講師にお招きしたり、逆に自主勉強会でつながった方が業務でのつながりに発展したりしています。

偶然からつながったキャリア

公共FMや自主勉強会を通じて得られたことや出会った方々とは、いろいろな偶然が積み重なりました。まさに、偶発的に生

じる出来事がキャリアに大きな影響を与えらるという「計画的偶発性理論」そのものです。その経験から、自身のキャリアデザインを考えることはあっても、あまり決めつけないようにしています。

以前の私は、自分の考えやアイデアを行動に移すまでに時間がかかっていたのですが、兵庫県伊丹市のMさんに教わってから、思い切った行動に移せるようになりました。その行動が何かの出来事や出会いにつながり、それが後になって何に影響するかもしれないと考え、その不安定さを楽しめるように努めています（これがなかなか難しいのですが…）。

そして、仕事をする上で心がけていることがあります。「仕事」は志をもってすることによって「志事」となる。楽しんでやることによって「楽志事」となる」というもので、これも諸先輩方から教わりました。私はお願いされたことに対しては「ハイ」か「YES」か「喜んで」と返事をするようにしていますが、それにより、志をもって前向きに仕事を楽しむことができ、「楽志事」⇨充実した仕事」になっています。

— いまやらねばいつできる、
わしがやらねばたれがやる —

私の好きな言葉の一つで、小平市の名誉市民である彫刻家・平櫛田中氏の名言です。自分だけのオンリーワンなキャリアデザインを目指して、仕事もプライベートも今できることを精一杯行い、楽しみましょう。